

憩いの場・五稜郭

これまで人間は愚かにも醜い戦いの歴史を繰り返してきた。そこには甚大な被害と悲しみがいつも付きまとっている。そこで戦いに勝つべく戦いを守るべくして造られたのが強固な城であった。これらの城は大きく分けて山城と平城がある。戦略的、防衛的な観点から山の上に建てられた城。そして広大な土地に権力示威的な豪壮絢爛な天守閣を有する城。築城してから今日まで現存している天守閣を持つ城は全国に 60 ほどある。その内の姫路城（世界遺産）をはじめ、松本城、彦根城、犬山城が国宝となっている。

これらのイメージとは全く違う形をした城が北海道・函館にある五稜郭である。日本初のフランス築城方式の五角形をした星型要塞の平城である。箱館開港時に函館山の麓に置かれた奉行所の移転先として築城されたもの。



1866（慶応2）年に五稜郭が完成した2年後に江戸幕府は崩壊する。そしてここは箱館戦争では旧幕府軍の拠点として占領されたこともあった。時が移り 1914（大正3）年には戦いを目的としたこの城は公園として市民に一般開放され国指定の特別史跡に。五稜郭の大きさは堀の内側は東京ドームの約3倍。堀の外周は約1.8km。しかし平面から見る限り全体像は全く分からない。そこですぐ脇に造られた五稜郭タワー（地上90m）の展望台から見るとくっきりと見事な星形の五角形が見渡せる。ここは市民の憩いの場所となる公園なのだ。

撮影 2015 年春

